



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

# LFPI News Letter

## Summer 2010 No.52

### 巻頭連載 創業十年を迎えての想い (2)

アースプロテクトの誕生は、自分にとって今までにない感覚を覚えた瞬間であった。

それは、居酒屋で後藤に自分の夢である仕事について一通り話した後、『環境に携わる仕事がしたいんだ、一緒にやらないか?』と尋ねると、後藤から返ってきた言葉は『いいよやろう!』と、それはとてもあっけらかんとした簡単な言葉だが、実に自分の心に深く染み渡る一言であった。

自分の人生をかけて一緒に夢を追いかけてくれる人間の存在は、到底自分一人では成しえない事が出来る勇気や、自分の内側から湧き出すような力を与えてくれるものであり、今まで自ら引き出すことの出来なかった力が潜在しているのだという事を確信したのもこの時である。

現に翌日には、お世話になっている勤め先の社長に、自分で事業をやりたいので辞めさせてほしいとお願いに行ったのであるが、強い意志を持って言えたのは、これからお話しする事があったからです。

それは、その数ヶ月前に社長から『この会社を継がないか』と声を掛けてもらっていた事が発端でありました。

その当時、社長と社長の息子でもある専務の関係があまり上手く行ってなかった事からその専務が、ドロップアウトして会社に数ヶ月来なくなっていた時期でもあり、そんな息子に継がせるのを仕方なくあきらめて、社長は自分に声を掛けたのでしょう。

正直その話を伺った時にはかなり悩みました。何故ならその会社の専務が、今でもよく一緒に遊んでいる中学の時から親友だったからです。

以前から自分は独立心が旺盛だったものの、10年以上もその会社で働き、その中から色々な事を学び経験した会社にある種の情が湧いてい

て、最後のほうは何が何でも独立だと思っていたわけでもありませんでした。しかし自分の中でそこで働き続けるには、絶対条件がありました。それは友人が先頭に立ち会社をやって行く事であり、その事を確かめる為に友人に最初で最後の質問をしました。それは『お前がこの会社を真剣にやって行くのであれば、お前を支えていくつもりだがどうなのだ』と聞いたが、その時友人は『自分出来るか分からないし、お前をこのままこの会社に留めておくだけの自信が無い』と言いました。

それを聞いて、『お前がやらないのなら仕方ない自分は別の道を考えたい』と話したのを今でも鮮明に覚えています。

その友人と話し合った日が、独立する事を決めた本当の分かれ道だったのかもしれませんが。

それが後から、後藤と居酒屋で語り合った事につながったのでしょう。

ここで将来独立をお考えの方に、是非お伝えしたい事があります。

それは、会社を辞める時は(円満退社)する事です、自分はそう出来るように普段から仕事にも取り組んでいました。何故なら、そこで仕事を通じ色々な事を学び成長させて貰ったのであるから、感謝の気持ちを持って円満退社する事がその会社への恩返しであり、そこまでやる事がある種の修行でもあり、それが出来なければ自ら事業を行なう上でかなりのリスクを背負う事になるのではないのでしょうか。

また、独立にあたり一番初めの仕事は、感謝の気持ちを持って会社を(円満退社)する事ではないかと自分は思います。

〈株式会社アースプロテクト 佐藤友一〉

# 平成22年度 LFPI 技術講座 (4月23日 ヨコハマプラザホテル)

## 有価物 (レアメタルなど) の回収技術

開催日時：2010年4月23日 (金)

講座：13:00～17:30

交流会：17:30～19:00

開催場所：ヨコハマプラザホテル

参加人数：47名

(13:05～14:00)

講演内容：基調講演

レアメタル回収と循環型社会の創生

北九州市立大学 教授 大矢 仁史 氏



要旨：最近話題となっているレアメタルリサイクルについて、レアメタルとは何か、どのように使われているのかという基礎的な解説とともに、今までとは違った視点でのリサイクルの必要性について講演された。また、そのための国家プロジェクトの動向とリサイクル技術開発について報告が行われました。

(14:05～14:50)

講座 1. 金属吸着剤における選択性の向上

—長鎖官能基型キレート樹脂の開発

日本フィルコン株式会社 井上 嘉則 氏

要旨：演者らは、長鎖官能基を有する金属選択性吸着剤の開発を行っており、吸着性官能基の長鎖化により、官能基の自由度が向上して選択性が改善されると共に、吸脱着速度も大幅に改善された。さらに、特異的官能基を共存させることにより、従来にはない特異性も



付与させることも可能となっている。本講演では、長鎖官能基を有する粒子状、焼結体状及び繊維状の金属選択性吸着剤の開発経緯に関して紹介された。

(14:55～15:40)

講座 2. 遠心力と膜を用いたシリコンと水の回収

野村マイクロ・サイエンス株式会社 米原 崇広 氏

要旨：半導体や太陽電池の基板となるウェハは、シリコンの結晶インゴットを加工して製造されている。シリコンインゴットの加工には様々な切削工程があり、この時シリコン結晶の微粉末が冷却水と共に多量に排出される。排水中の微粉末シリコンを『中空糸膜+遠心分離』システムを用いて、無薬注で純度良く回収するシステムについて紹介された。



# 平成22年度 LFPI 技術講座 (4月23日 ヨコハマプラザホテル)

(15:55 ~ 16:40)

## 講座 3. イオン交換樹脂による有価金属等の分離・回収の紹介

日本錬水株式会社 古荘 三郎 氏



要旨：レアメタルのほか銅や亜鉛などのベースメタルは、日本の先端産業を維持・発展させていくために、材料や部品に必須なものである。一方、これら金属は世界的需要増大、価格高騰、資源ナショナリズムの高まりを背景に安定調達が難しくなっている。講演では日本錬水株式会社のイオン交換樹脂を使用した金属等の分離・回収の実用化例、および検討例を紹介し、関連産業の効率的な回収・リサイクルシステムの一助になればとの講演であった。

(16:45 ~ 17:30)

## 講座 4. 新開発吸着材による排水中のリン・フッ素資源回収技術

高橋金属株式会社 広川 載泰 氏



要旨：排水に含まれるリン酸イオン、フッ化物イオン等に対して高い吸着性能を示し、排水中の濃度をほぼ0にすると共に、吸着した物質を資源として回収しリサイクル可能にする吸着材が新規に開発された。本吸着材は繰り返し使用可能で排水処理費用を低減することができ、また、純度の高い回収品を得られるため、「排水処理」と「資源回収」を同時に行うことができるというメリットがあることが紹介された。〈技術委員会〉



## LFPI国際交流委員会主催 中国水ビジネス支援セミナー報告

### — 知的所有権の確保対策と支援サービス —



熱弁を振るう日本アイアール矢間社長

2010年4月20日（火）横浜プラザホテルにて開催し、37名が参加した。

最初に紙尾康作先生より「研究開発者側の視点から見た特許の話」についてお話しいただいた。企業の事業活動に於ける特許戦略の重要性を強調されていた。「特許で保護されていない商品は欠陥商品である」との言葉は印象に残った。開発技術者は特許を念頭に置いた開発戦略を実践すべきと強調されました。

帝国データバンクネットコミュニケーションの川上嘉弘氏から「中国向けビジネス支援サービス - 日中ビジネス加速サイト -」について説明があった。江蘇省人民政府と協力し中国インターネットによる日本企業の製品紹介を開始、LFPI 会員企業 17 社登録済である。今後の活用を期待する。

ジェトロ在外企業支援・知的財産部課長代理清水えり奈氏より「JETRO 知的財産保護関連サービスの紹介」として①諸外国政府への協力要請・協力事業の実施 ②情報提供・相談サービス ③その他サービス等で豊富な参考資料の紹介があった。LFPI 国際交流委員会も JETRO 上海事務所と交流を持っている。

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会

社上野裕子氏より「中国で守って儲ける知財戦略」というタイトルで①契約の重要性、②意図せざる技術流出、③自社の知財価値を知るについて豊富な事例紹介があった。中国に進出済みの企業の経験談は大変参考になった。

日本アイアール株式会社社長 矢間伸次氏より「中国への特許出願、中間処理と権利行使」というタイトルで①中国への特許出願、②中国特許調査、③中国語翻訳サービス、④事例紹介の説明があり、実務経験よりの事例紹介は迫力満点であった。中国の特許制度、政策を我々は知らないことを痛感した。

感想として参加者より複数のメールが寄せられたので紹介する。

①矢間社長の講演では、日本の特許習慣がグローバル基準に合致していなく大いに問題があるとの説明であった。中国の特許申請の実情を知るべきである。日本の特許制度はガラバコス化している。

②紙尾康作先生の特許の話も特許の取り方、製品の権利確保でいつもながら実践に役立つ内容であった。

開発技術者に勉強させる必要性を感じた。経営陣も中国ビジネスでの特許の重要性を再認識すべきである。

③JETRO は中国ビジネスに関して中小企業向けに多くの啓蒙資料を発行している。中国ビジネスに対して真似されない対策が重要であり、何をやるべきか少し解ってきた。

LFPI 会員企業が中国水ビジネスに参入するためには、知的所有権専門の担当者を置くか外部の専門家のアドバイスを得ながら真似されない製品作りが必要であると痛感した。

〈報告者：国際交流委員長 矢部江一〉


 オフ  
タイム

## 風を切って

前号からニュースレターに「オフタイム」というコーナーを設け、会員の皆様がオフタイムをどのように楽しんでいるかを紹介することにした。初回は特別会員の矢野政行氏に原稿をお願いしたが、5月の広報委員会を欠席した小生に今回の原稿依頼が回って来ることになってしまった。そもそもオフタイムはオンタイムがある人達の息抜きや趣味を紹介させてもらうのが趣旨であるから、矢野会員（実は小生が原稿依頼を行った）も小生も今は常にオフタイムの人間であるから趣旨に沿わないような気がする。

しかしながら、このコーナーがうまく軌道に乗るための助走としてお役に立てればと遺憾ながら了解をしたような次第である。

昨年、会社を退職してから体力維持と趣味を両立させる意味で自転車始めた。

ロードバイクは二十歳台の頃、友達に薦められて、そこそこに楽しんでた時期があった。そのうち子供が生まれ、自転車はベランダに置かれたまま錆付いて、いつの間にかストラップになってしまった。

その後、30年以上経ってからのロードバイクで、まず先に思ったのは「怖い」という気持ちである。車道の隅を走る時、トラックが急激に幅寄せしてきたり、咄嗟の時、クリートと呼ばれるシューズの突起がペダルから抜けなかったりする恐怖がある。

クリートはペダルにロックされると容易に抜けない。足首を外側にひねって外さなくてはならないが、初心者は要領が身についておらず、危険が迫った時に足がロックされたまま転倒するという危険性がある。

ということで、そういった恐怖に耐えながら何とか昔の感を戻しつつある今日この頃である。

今まで慣れきってしまった車や電車での移動手段を自転車に切り替えた事で、見える風景が



自転車にはヘルメットを



ペダルの溝

シューズのクリート部

全く変って来た。季節の風の臭いを感じながら紅葉の林や冬枯れの田んぼ、早春の梅、四月の桜、初夏の若葉の中に、ここ何十年も本当に感じ取ることが出来なかった自然との対話を楽しむことが至上の喜びとなっている。

しかし、ウイークディに出かけた時に極端に若者が少ない事は寂しくもある。サイクリングロードには健康を気遣う老人が乗るママチャリや、足を引きずるようなランニング、犬の散歩や裸で彷徨う人など、今までに経験したこともない高齢者の群れに出くわす。尤もこちらも同様な年齢だと思えば変にガッカリしたりもする。

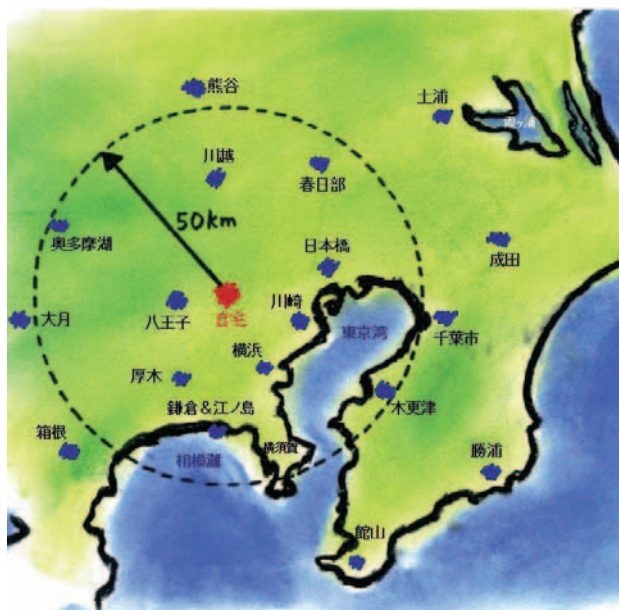
自転車の行動範囲はかなり広い。今の自分にとって適度な運動量かどうか分からないが、一応

## 風を切って

MAX これくらいの走行距離にしておこうと決めたのが、自宅から半径50km、時間にして片道2時間半ということにしている。半径50kmは往復100kmだが、今まで走った目的地は、南は江ノ島、西は奥多摩や桜原村、北は多摩湖（これは近い）、東は川崎あたりになる。片道2時間半は往復5時間だから、休憩を挟むと6時間を念頭に入れて出発する。絵地図に自宅から半径50kmを表記したが、これは直線距離なので、実際の走行50kmはもう少し内側になる。しかし、かなり広範な地域をカバー出来る事には変わらない。

自転車は自分自身の心肺能力と脚力が頼りであり、エコという点では歩行やランニングと同様だが、行動範囲がかなり広がるので体験出来る内容が幅広くなる。先日、テレビでデンマークの自転車普及率について放送していたが、国民の環境に対する意識が高く、通勤を含む移動手段に多くの人達が自転車を利用している。こうした国民的意識が環境問題を底辺から改善していくのではないかと考えている。

しかし、この季節は紫外線が強く、今日の気



自宅から半径50kmはかなり広い



桜の羽村取水堰—羽村市



江ノ島に着いた

温は30度近くあったので走り始めてから2時間程度で腕や足が白っぽくなる。体の塩が汗とともに体外に放出されるからだ。

こうした激しい運動は体力の消耗や日射病を避けるため、季節的には真夏は避けるのが良いだろうが、そういう気にはなれない。

この先、どれくらいの間自転車を楽しめるかわからないが、心の中は青春である。その心に反して自分を覆っている肉体が年々老朽化していくのは許し難い事である。……が、そんな事を考えていても仕方がない。

自転車を始めて9ヶ月を過ぎたが、いつも新たな体験が自分を呼んでいるような気がして、ロードに乗り出す思案に余念が無い今日この頃である。

明日も風を切って……。

〈特別会員 卜部兼好〉

# 技術委員のつぶやき話(その1) 野村マイクロ・サイエンス株式会社 杉山 勇

## ホタルの住む環境

今回のニュースレターから、技術委員が持ち回りで原稿を書くページが新設されました。内容に関しては、会社に関するもの（会社の業務紹介、新製品や新技術の紹介 等）、自身の業務経験に関するもの（仕事上の苦労話や失敗談、仕事で出会った印象深い人物の紹介 等）、個人に関するもの（趣味の話、家族の話 等）、あるいはLFPIに関するもの（会員への要望、温めている新企画 等）、など全く自由に取上げられるものとします。

技術委員によるリレー執筆形式を採用し、“技術委員のつぶやき話”というタイトルで、読者から“Stop”の声がかかるまでつぶやき続けたいと思っています。

技術委員長をしていることから第1回目の指名を受けましたが、あえて仕事やLFPI以外の話題を選び、ホタルの話をしたと思います。

無理やり業務に結び付ければ、ホタルの発光反応を利用した微生物の迅速検出技術が実用化されています。これは、ホタルの持つルシフェリンとATP（アデノシン三リン酸、微生物も含めすべての生物はATPを持っている。）の発光反応を用いて微生物を検出する技術で、従来の培養法だと数日間必要な微生物数の検出が、うまくいけば1時間以内に可能となります。残念ながら、超純水分野では対象とする生菌濃度が低いので実用化されていないのが現状です。

それはさておき、ホタルの生息できる環境についての紹介です。（普通は、ゲンジボタルとヘイケボタルが観察されますが、以下は主にゲンジボタルの説明です。）

私の自宅は平塚市（神奈川県人口25万人規模の市）にありますが、現在、ホタルが自然生息しているのは、市内にはほんの1~2か所だけです。これは、ホタルとホタルの幼虫の餌であるカワニナの両方が生存できる環境が限られていることによるものようです。谷戸と呼ばれる谷あいの低地の一番奥に位置する田んぼに行くと、平塚でもホタルを見ることができます。谷戸の奥の田んぼは、水温が低く稲の生育が悪い、用水路の維持や農作業に手間がかかる、などの理由からだんだん放置されていく傾向にありますが、現状の環境を維持しないとホタルの生育を継続できないようです。

例えば、稲作の効率を上げるために農薬や化学肥料を使用すると、ホタルの幼虫が育たない。田んぼを維持するためには、用水路の定期的な掃除が必要だが、人力で泥をすくいとるのは地区の人の負担が大きい。負荷低減のために用水路をコンクリート化したり、大型機械で掃除や整備したりするとカワニナが育たない。また、稲作を放棄してしまうと、用水路の整備もしなくなるので、やはり幼虫やカワニナが育たない。用水路の水はきれいでないとホタルの幼虫が育たないが、ある程度の不純物を含まないとカワニナが育たない。

というように、相互に複雑な関係があり、少なくとも平塚市では周囲環境の微妙なバランスの上にかろうじて現在のホタルの生育環境が保持されています。

ホタルに関しても、知っているようで知らないことも多いと思います。成虫はオス・メスともに生殖のみのために生き、寿命も数日間で成虫になってからは水しか飲まない。オス、メスともに発光するが、飛んでいるのはオスが多い。発光はお互いのコミュニケーションが目的であり、街灯や懐中電灯などの強い光が当たると発光をやめてしまい、パートナー探しに障害が出る。多くの個体が同時に発光することが多いが、最盛時は30分以内と短い。ゲンジボタルの発光間隔は地域で異なり、関東は4秒、関西は2秒と言われているが、中間に3秒間隔のゲンジボタルも生息する。等がホタルの性質として挙げられます。

知識としてホタルの発光を知っていても実際には見たことがない人や、子供時代に見たことはあるが久しく見ていない人は、1度機会を見つけて自然のホタルを見に行ってみようでしょうか？ 大人になってホタルを見ると、想像よりもはるかに鮮烈な光に驚かされ、感動する人も多いと思います。この原稿を書いている頃が関東地区では観察時期のぎりぎり最終であり、ニュースレターの発行時期では少し遅いかもしれません。興味ある人は、来年は、ぜひホタルを見に行ってください。（次のつぶやきに続く）



ゲンジボタル



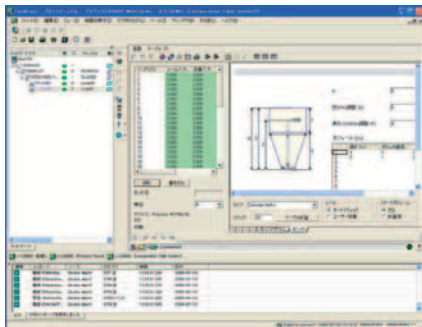
ヘイケボタル

<http://www.coara.or.jp/~ynakamra/index.html>

## 新製品／主力製品紹介

### フィールド機器設定 / 診断ツール「フィールドケア」

〈製品概要〉フィールドケアは、オープン化技術に基づき設計、開発されたフィールド機器設定 / 診断ツールです。HART 通信、プロフィバス通信、ファンデーションフィールドバス通信といったプロトコルに対応しており、このツール一つでメーカーを問わず機器の設定や診断が行えます。



機器との通信を一对一で行うのであれば、無償でおつかいいただけます。また、機器との間にゲートウェイなどの通信機器を組み合わせれば、インターネットや電話回線を介したリモートメンテナンスも可能です。プラント保守管理コストの低減、ダウンタイムの回避、故障の予見、信頼性、運転効率の向上に貢献いたします。

#### 〈特徴・仕様〉

- 対応OS: Windows XP SP3, Windows Vista
- 機器の操作は保全担当者ごとにユーザー名とアクセス権の設定ができ、セキュリティに配慮
- 機器の設定の保存や書き込みが可能、保守時間の短縮、機器の管理の効率化に貢献
- 機器の設定内容は、pdfファイルとしても書き出し可能
- 機器の自己診断を集約し、異常を検知すれば、eメールで異常内容と共に送信

#### エンドレスハウザージャパン株式会社

〒183-0036 東京都府中市日新町 5-70-3  
 TEL: 042-314-1911 FAX: 042-314-1951  
 URL: www.jp.endress.com

## “ろ過・フィルターに関する試験・分析・相談窓口”の開設について

この4月中旬からLFPIのHPに“ろ過・フィルターに関する試験・分析・相談窓口”のバナーが表示されました。内容はフィルター評価試験、水質評価試験およびろ過に関する相談であります。ここに至った経緯を解説します。

1997年LFPI設立の目的のひとつとして「液体清澄化技術の公的試験機関の設立」を謳っています。ヨーロッパ（南仏）には民間企業ではあるが、ろ過試験をはじめとして液体清澄化技術の依頼試験を行う準公的機関があり、ヨーロッパが主ですが、世界中から依頼試験を受注しています。しかしながら、日本にはいろいろな条件でのろ過試験等を有料で実施してもらえる試験機関がありません。そこで昨年、LFPI設立時の目的を達成するために、会員の方々に以下の、5月7日付けの「フィルター評価等の依頼試験WG参加案内（抜粋）」を事務局から送付しました。

「LFPIの事務局に各種フィルターの性能評価試験の依頼がたまにきます。その場合、依頼相手には「現在、日本には公的なフィルター評価機関はなく、どこかの会社に試験を御願ひするしかありません。従いまして、LFPIとしてはご要望には添えませんが」と回答しているのが現状です。しかしながら、LFPIの会員には各種の試験装置をお持ちの会社がたくさんあります。そこで、もし可能であれば、各社の試験装置を活用してもらい、LFPI内外からの依頼試験を協力可能なLFPI会員企業内で実施できないかと、考えて

おります。また、このような事業をすることにより、LFPIの工業会としての名声を高めることができる、と考えています。しかしながら、この案を実施するためには、以下の事項を検討する必要があります。～～」

2009年5月21日に第1回WGが行われ、事務局長も含めて約10社が集まりました。1～1.5ヶ月に1回WGを開催し、2010年4月6日に第10回WGで終了しました。議論した内容は、①試験可能な項目、②試験依頼から最終試験報告書作成までの手順（フロー）とFORMAT、③試験費用と支払い条件、④秘密保持の内容、および⑤試験を実施してもらえる会員企業の選定、です。①～④の結果はHPに載せているとおりです。一番の課題は試験を実施してくれる会員企業の選定でした。積極的に試験実施に協力してくれる企業もあれば、ビジネスに結び付かないような試験実施については会社の方針として消極的な企業もありました。最終的には、フィルター等の試験については積極的に協力してくれる企業に当面お願いし、一般的なろ過に関する相談・問い合わせ案件については全参加企業に流し、協力を募ることになりました。

HPに載せて約2カ月経ちましたが、HPを見た非会員からの試験依頼件数は6月20日までに3件です。年間10件程度と考えていたので、妥当な件数です。今後は、試験内容によりWG以外の会員企業に試験の実施をお願いするかもしれませんが、その時はご協力よろしく申し上げます。

〈規格・標準委員会委員長 松本幹治〉



## ニュースレターとウェブサイトの リニューアルについて

当会の二つの広報媒体のリニューアルに関して、お知らせとお願いを申し上げます。まず、ニュースレターですが、従来の依頼記事中心の紙面を連載と投稿の2本柱と致します。前号から巻頭連載、今号から技術委員会の連載が始まりました。投稿については、皆様から次の二つを募集致します。

- ① 新製品／主力製品紹介：600字＋写真1枚、〈製品名〉、〈製品概要〉、〈特徴・仕様〉社名、住所、TEL、FAX、URL。今号を手本として、原稿を事務局にお寄せください。掲載されたあと、1年は再掲載できないことと致します。また、先着順とし、最小1社、最大4社まで掲載し、5社以降は次号に繰り越しと致します。
- ② 自由エッセイ：原則1ページで10.5ポイント、A4仕上がり原稿。または、1000～1200字、写真2枚以内。「A4仕上がり原稿」とは、そのまま印刷できる版下でご提供頂くことです  
次に、ウェブサイトですが、第1に、「実施済の行事」ページを充実させます。これまでは、ニュースレターに参加された方の感想を掲載していましたが、これからはニュースレターとウェブサイトに、同じ内容で、各行事主催者による概要と写真を載せることに致します。第2に、トップページのニュースレター最新版の余白に、会員企業のPRバナーを掲載致します。バナーを貼りつけたい会員の方は、バナーを用意され、事務局までお申し込みください。費用は掲載実費（数千円程度）とさせていただきます。応募多数の場合は先着順とさせていただきます。 〈広報委員会〉

## 会 告

### LFPI 基礎技術講座「フィルターの基礎①

#### ー糸巻き・不織布フィルターー

開催日時：平成22年7月14日(水)

場 所：ヨコハマプラザホテル

詳細は案内書、ウェブサイトをご覧ください

### 日中水処理技術・膜技術及び応用シンポジウム、 見学会

開催日時：2010年7月23日(金)

9:00～21:00、24日(土) 9:00～13:00

場 所：主婦会館プラザエフ

詳細は案内書、ウェブサイトをご覧ください

### 第12回 LFPI 基礎実験講座「遠心分離、不織布 フィルターによる固液分離と微粒子計測」

#### 第1回（関東地区）

日時：平成22年8月31日(火) 10:00～18:30

場所：アルファ・ラバル(株)湘南センター（神奈川県高座郡寒川町、JR 東海道線茅ヶ崎駅よりシャトルバスが利用できます。）

募集定員：12名

#### 第2回（関西地区）

日時：平成22年9月9日(木) 10:00～18:30

場所：安積濾紙株式会社（大阪市東淀川区）

募集定員：12名

（1回目と2回目は同じ内容です。）

詳細は後日、案内書、ウェブサイトでご案内致します

## 編集後記

ニュースレターも50号を超えました。LFPIホームページでの閲覧、PDFファイル配信等改善を図ってきております。

今回内容につきましても、技術委員会のページ、前号からはじめました「オフタイム」、また別途ご案内しておりますように会員からの投稿ページを設けるなど新企画が始まりました。

こうした事から、広報委員としてニュースレター編集作業負担の軽減となっており、ホームページリニューアル及びニュースレターの一層の充実を図りたいと思っております。

これらに関しまして会員各位のご意見・ご要望などお寄せいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

〈森永エンジニアリング株式会社 高瀬 敏〉

編集/発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会  
住所：〒194-0032 東京都町田市本町田2087-14  
TEL (042) 720-4402 FAX (042) 710-9176  
LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>